

野町、弥生、中村町、十一屋 校下（地区）

ともに考えよう まちづくりミーティング

平成28年7月23日(土) 18時30分から
於 金沢市消防局 2階 防災センター

本日は、お忙しい中をご参加いただき、誠にありがとうございます。
進行は次のとおりですので、よろしくお願いいたします。

～ 開会前、市政紹介動画の放映 ～

金沢市公式プロモーションムービー
「カラーセオリーフォーカナザワ」 (平成27年11月)
金沢を味わう、映像で (平成27年4月)

今回放映しました市政
紹介動画は、金沢市のHP
“いいね金沢”
でご覧になれます。

- (1) 市長あいさつ
- (2) 地域代表あいさつ
- (3) 進行の説明等
- (4) 地域課題の発表
- (5) 地域課題に対する市の方針等の説明
- (6) 地域課題について討議
- (7) 共通課題について討議
- (8) 市長まとめ など

※恐れ入りますが、アンケートにご協力ください。

お帰りの際に、用紙をアンケート箱にお入れください。

金沢市広報広聴課 TEL 220-2348 FAX 220-20300

平成28年度第1回「ともに考えよう まちづくりミーティング」

提出課題一覧表 1

町会連合会名	野 町 町 会 連 合 会
地域課題	泉小学校（旧野町小学校）の跡地活用について
課題の内容	<p>野町地区は、金沢市においても少子高齢化が進んでおり、児童数の減少で、野町小学校と弥生小学校の統合を決断したところです。</p> <p>新たな泉小学校が平成29年に新校舎へ移転となるので、同校跡に野町会館に入居している各種団体の移転をお願いしているところであります。</p> <p>また、小学校の移転に伴い、野町地区の活性化に向けた取り組みが必要だと考えています。</p>
特に話し合いたい内容、聞きたい事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泉小学校（旧野町小学校）の跡地活用について
課題について、地域での取り組み、特に市と協働で行う事業の提案・提言	<p>①現在、野町会館には公民館や町会連合会、第一善隣館などが入居し、各種活動を行っています。今後の跡地活用の協議については、それぞれの施設を所管する市の担当部局と一緒に行いたいので、そのような場を設けていただきたい。</p> <p>②また、同跡地に地域活性化につながる市の公共施設を設置することも併せて考えていただきたい。</p>

提出課題についての市の方針等 1 - (1)

課 題	泉小学校（旧野町小学校）の跡地活用について	
特に話し合いたい内容、聞きたい事項等	①現在、野町会館には公民館や町会連合会、善隣館などが入居している。今後の跡地活用の協議については、これら施設を所管する市の担当部局と一緒に進めるような場を設けていただきたい。 ②地域活性化につながる公共施設の設置も併せて考えていただきたい。	
市の方針等	<p>泉小学校移転後の学校施設の利活用については、今年度の当初予算に、まちなか教育施設再編整備検討費を計上し、要望の公民館の移転や公共的な利用など、野町地区の活性化につながる活用策を現在、検討しているところです。ただ、公平性の観点から、要望すべてについて応えることは難しいと考えています。</p> <p>旧野町小学校の跡地活用については、関係部局も含め、地域の方々との協議の場を作っていきたいと考えています。</p>	
担当課	教育総務課	電話 220-2431

提出課題一覧表 2

町会連合会名	弥生町会連合会
地域課題	泉中の新校舎建設に合わせた「地域防災倉庫」の併設について
課題の内容	<p>「泉小、泉中建設連絡会」で示された新校舎完成図は素晴らしく、地域の新しいシンボルの誕生に住民一同は大変喜んでおります。</p> <p>これらの新校舎では、災害発生時に、拠点避難所となる泉小体育館には300～400人、指定避難所となる泉中体育館には400～500人が避難すると見込まれることから、新校舎建設に当たり、校下全体の避難のあり方も含めた防災の視点も重点的に取り入れるべきであると考えています。</p>
特に話し合いたい内容、聞きたい事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、拠点避難場所となる泉小の敷地内に、防災倉庫の設置が決まっていますが、指定避難場所となる泉中も含め、「学校と地域」・「学校と防災」の両面で金沢市のモデルケースとなるような防災倉庫のあり方について話し合いたい。
課題について、地域での取り組み、特に市と協働で行う事業の提案・提言	<p>①弥生自主防災会は「災害時における協力協定」を病院、ドラッグストア、コンビニなど6団体と締結していることから、災害時には、泉小中学校の各避難場所で、これらの団体との連絡拠点となるなど、避難場所の機能充実は間違いなく、加えて、そこに防災倉庫を設置し、学校側備品と弥生自主防災会の備品とを入れて共同利用すれば、より厚く一体的運用ができると考えていることから、今後建設予定の泉中体育館付近に、泉小と同様、防災倉庫を併設していただきたい。</p>

提出課題についての市の方針等 2 - (1)

課 題	泉中の新校舎建設に合わせた「地域防災倉庫」の併設について	
特に話し合いたい内容、聞きたい事項等	①避難場所である学校に防災倉庫を設置し、学校備品と自主防災会の備品を入れ共同利用すれば、より厚く一体的運用ができる。 今後建設予定の泉中体育館付近に、防災倉庫を併設していただきたい。	
市の方針等	<p>学校は、災害時には、地域の防災拠点としての役割を担うことになるから、これまでも防災備品の備蓄等に努めてきており、現在建設中の泉小学校については、拠点避難場所である体育館付近に、教室1部屋分に相当する広さの防災倉庫を設けることとしました。</p> <p>なお、現在、隣接する金沢大学弥生地区用地の取得に向け、金沢大学と協議を行っているところであり、泉中学校の体育館建設を含め、敷地全体の詳細な利用計画については、今後、検討していくこととしています。</p>	
担当課	教育総務課、危機管理課	電話 220-2431

提出課題一覧表 3

町会連合会名	中村町校下町会連合会
地域課題	高齢者が安心して住み続けられる“まちづくり”をめざして
課題の内容	<p>中村町校下では、住民の高齢化とともに、認知症の方々も増加し、その方々が安心して暮らせる“まちづくり”をめざして、地区内に存在する各種団体及び個人が“福祉”でまとまり、「中村地区福祉活動委員会」を立ち上げ、活動をスタートさせました。</p> <p>その委員会において、今年1月に、地域に住む満75歳以上の方々全員にアンケート調査を実施しました。</p> <p>(回答者 749名、回答率 69.7%)</p> <p>〈配布の「福祉なかむら」22号参照〉</p> <p>その結果から、「住民同士の声掛け」や「福祉講演会への積極的な参加」を、まずは呼びかけて参りますが、地域住民が気楽に集い、語り合える「高齢者サロン」も必要だと考えています。</p>
特に話し合いたい内容、聞きたい事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民への善隣館意識の啓発と中村町善隣館を活用したコミュニティのあり方について
課題について、地域での取り組み、特に市と協働で行う事業の提案・提言	<p>①現在、泉野福祉健康センター内にある地域包括支援センターのうち、中村町と新神田を中村町善隣館に移していただき、高齢者サロン運営の一端を担っていただきたい。</p>

提出課題についての市の方針等 3 - (1)

課 題	高齢者が安心して住み続けられる“まちづくり”をめざして	
提案・提言等	①現在、泉野福祉健康センター内にある地域包括支援センターのうち、中村町と新神田を中村善隣館に移し、高齢者サロン運営の一端を担ってほしい。	
市の方針等	<p>本市では、地理的条件、人口、交通事情、その他を考慮して、市内に19の日常生活圏域を設定し、介護保険事業計画における基盤整備の基本単位としています。</p> <p>また、それぞれの圏域に設けた地域包括支援センターには、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員、介護支援専門員の4人の職員体制を整えています。</p> <p>ご提案のように地域包括支援センターを担当地域で分割することは、事業計画の基本単位が変更されることや効率的な運営という観点から課題が多く、また職員を分散配置し体制を整備するための人員にも余裕がないことなどから、現在、泉野福祉健康センター内にある地域包括支援センターを分割することは考えていません。</p> <p>中村町善隣館をはじめ、善隣館は、地域の方々に組織され地域福祉の分野で先駆的な活動を行うとともに、地域福祉の精神を醸成してきた社会福祉法人であります。</p> <p>社会福祉法人としての中村町善隣館が、今後も地域の核として積極的な活動をされることを市としても期待しており、まずは、社会福祉法人として、法や定款に定める社会福祉事業をどのように具体的に展開されていくかが大切なことと考えており、中村町善隣館、中村町校下町会連合会、金沢市善隣館協議会等における議論に、市としても参加していきたいと考えています。</p>	
担当課	長寿福祉課	電話 220-2288

提出課題一覧表 4

町会連合会名	十一屋校下町会連合会
地域課題	公営住宅が起因する問題について
課題の内容	<p>十一屋校下では、公営住宅（市、県）に居住する世帯が校下全世帯の40%以上を占めているため、問題を抱えた家庭の児童の増加、高齢者世帯の急増、外国人世帯の増加など、公営住宅を因とするさまざまな問題が生じてきており、自治会活動をきわめて困難にしています。</p> <p>特に深刻なのは、問題を抱えた児童の家庭との関わりです。将来を担う子供たちが今「生きづらさ」を感じている背景には、家庭に貧困があるケースが多いと思われます。現在、経済問題を抱えた家庭の児童が校下内の公営住宅に多数入居しています。そして、経済的、時間的に余裕のない家庭の子供たちは、十分な愛情を受けられず情緒不安定となり、自分自身を傷つけたり、他人への暴言や暴力になって現れています。校下関係施設（小学校、児童館、児童クラブ）では、このような問題を抱えた児童の対応に非常に困難を伴い、人手が掛かっているのが実情です。</p> <p>公営住宅に入居している家庭のほとんどの児童は健全に育っていますが、この校下には問題行動を抱えた児童が他の地区に比べて非常に多いのも現実で、こうした状況の背景には、一人親家庭や高齢世帯の比率が高い公営住宅の世帯構成も影響していると思われ、何らかの対策が必要と考えています。</p>
特に話し合いたい内容、聞きたい事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・この地区特有の児童の実情にあった対応策について ・公営住宅における一人親家庭や高齢世帯との世帯間、世代間の隙間を埋める方策について
課題について、地域での取り組み、特に市と協働で行う事業の提案・提言	<ol style="list-style-type: none"> ①児童相談所へのつなぎの役目となる校下関係施設への「職員の増員」や「専門家の定期的な派遣」をしていただきたい。 ②特に市営住宅に若い世代の家庭を増やすため、所得上限額を緩和することはできないか。

提出課題についての市の方針等 4 - (1)

課 題	公営住宅が起因する問題について	
提案・提言等	①児童相談所へのつなぎの役目となる校下関係施設への「職員の増員」や「専門家の定期的な派遣」をしていただきたい。	
市の方針等	<p>近年、子どもの貧困については、大きな課題となっており、本市では貧困状態にある子どもの支援に取り組むため、今年度、庁内関係各課で構成する対策チームを立ち上げたところであり、一義的にはこのチームでしっかり対応していきます。</p> <p>今後、関連施策の検討や個別の事案に対応するための連携のあり方について検討していくこととしていますが、地域福祉関係者とも連絡を密にしていきます。</p> <p>放課後児童クラブへの支援としては、障害のある児童を受け入れているクラブに対して専任職員を配置できるよう委託料を加算しているほか、職員の処遇改善や開所時間の延長についても支援態勢を強化したところです。</p> <p>さらに、今年度から、ひとり親家庭に対する利用料の軽減を実施しているクラブに対し、新たに支援制度を設けるなど、公営住宅の多い地域の実情も考慮しました。</p> <p>なお、放課後児童クラブに通う支援の必要な児童については、教育プラザのこども総合相談センターから、児童館・放課後児童クラブへ巡回専門相談員を派遣し、指導員や児童厚生員等の相談にも応じているところであり、お困りの事案があればぜひご相談ください。</p>	
担当課	福祉総務課 こども政策推進課	電話 220-2278 電話 220-2299

提出課題についての市の方針等 4 - (2)

課 題	公営住宅が起因する問題について	
提案・提言等	①児童相談所へのつなぎの役目となる校下関係施設への「職員の増員」や「専門家の定期的な派遣」をしていただきたい。	
市の方針等	<p>本市では、不登校・問題行動等の未然防止や、児童生徒・保護者・教職員への相談に対応するため、これまでも心の絆サポーターやスクールカウンセラーを配置し、学校の生徒指導に係るサポート体制の強化を図ってきたところです。</p> <p>昨年度から3名に増員した心の絆サポーターは、学校や教育委員会からの要請に応じ、問題の抱える児童生徒やその家庭に関わるとともに、必要に応じて他の家庭や学校、児童相談所や警察・家庭裁判所等の関係機関との連携役を果たしています。</p> <p>児童生徒の臨床心理に関して高度で専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーは、学校の相談室等において、児童生徒だけでなく、保護者や教職員のカウンセリングを行っており、小学校19校と全中学校に配置しています。</p> <p>また、保健室、相談室等別室登校児童生徒に対し、カウンセリング機能や学習支援の充実と別室登校の早期解決を図るため、心と学びの支援員を小学校12校、中学校20校に配置しています。</p> <p>不登校や問題行動等の背景として、家庭環境や他校の児童生徒との関係など複雑な要因が存在し、教職員だけでは対応が難しいケースも増えてきていることから、今後とも、学校と家庭の連携を密にしていく一方で、家庭訪問や関係機関への連絡調整やカウンセリング機能等にかかる人材の配置を充実させ、学校のサポート体制を強化していきたいと考えています。</p>	
担当課	学校指導課	電話 220-2436

提出課題についての市の方針等 4 - (3)

課 題	公営住宅が起因する問題について	
提案・提言等	②市営住宅に若い世代の家庭を増やすため、所得上限額を緩和することはできないか。	
市の方針等	<p>平成28年3月の金沢市営住宅条例の改正で義務教育終了前の子育て世帯や夫婦の合計年齢が70歳以下の世帯を対象として収入基準を緩和し、若年世帯の入居を促進したところであり、この活用によりコミュニティの再生が図られることを期待しています。</p> <p>さらなる基準緩和については、住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で住宅を提供するという公営住宅法の趣旨から制約があることをご理解ください。</p>	
担当課	市営住宅課	電話 220-2333

提出課題一覧表 5

町会連合会名	弥生町会連合会
共通課題	震災に強いまちづくり
意見、質問の内容	<p>拠点避難場所に防災井戸は必要ではないでしょうか？</p> <p>①震災に強いまちであるためには、拠点避難場所の充実が欠かせない。耐震化された建物・十分な備蓄のできる倉庫・マンホールトイレ・太陽光発電、そして防災井戸は必須アイテム。</p> <p>②飲料水の調達システムは整備されつつあるが、トイレの水などの生活用水の確保は非常に難しいのが現状。避難所の衛生を保ち、ノロウイルスなど感染症を防ぐためにも十分な生活用水が必要。</p> <p>③地域住民の高齢化が進み、避難所内で十分な水を確保できなければ、避難生活はより困難を極める。『弱者を生まない対策』は、重要課題のひとつ。</p> <p>以上のような理由により、震災に強いまちづくりのためには、拠点避難場所の充実が必要で、なかでも、防災井戸の設置は、軽視できないものと考えます。</p>

提出課題についての市の方針等 5 - (1)

<p>共通課題</p>	<p>震災に強いまちづくり</p>	
<p>意見、質問等</p>	<p>拠点避難場所に防災井戸は必要ではないか。</p>	
<p>市の方針等</p>	<p>ご指摘の防災井戸は、阪神淡路大震災を受け、平成8年度から11年度にかけて、13の小学校敷地内に、災害時に市民生活に必要な水を確保することを目的として設置したもので、全ての拠点避難場所に設置している設備ではありません。</p> <p>一方、平成10年には、市内の民間事業者等が所有される既存の井戸を災害時協力井戸として登録する制度を創設し、現在、市全体では206箇所、弥生地区においても5箇所の井戸が登録されており、今年度から、設備の確認や水質検査を行うこととしています。</p> <p>また、企業局においては、水道施設の耐震化を進めるとともに、東日本大震災を教訓として、日本水道協会による広域的な給水応援体制が構築され、熊本地震においてその成果が発揮されるなど、災害時における給水体制は、確実に強化していると考えています。</p> <p>更には、平成26年度より、拠点避難場所の給水設備として、一度に1,000Lの給水が可能な応急給水槽の配備も計画的に進めていることから、学校防災井戸の新設の予定はないことをご了承ください。</p> <p>【参考】 学校防災井戸設置校</p> <p>H8 泉小（旧野町小）、新堅町小、菊川町小、森山町小</p> <p>H9 泉野小、浅野町小、旧材木町小</p> <p>H10 旧弥生小（撤去済み）、中村町小、大徳小</p> <p>H11 安原小、大野町小、栗崎小</p>	
<p>担当課</p>	<p>危機管理課、建設課</p>	<p>電話 220-2366</p>

提出課題一覧表 6

町会連合会名	十 一 屋 校 下 町 会 連 合 会
共通課題	震災に強いまちづくり
意見、質問の内容	<p>いざ震災を受けた場合に「知っていること」と「出来ること」では大きな違いがでてきます。</p> <p>人は非常の場合は知識ではなく、今まで実践して体験したことしか出来ないと思います。</p> <p>また、災害は行政や町会関係、民生委員など社会福祉関係者だけで対処するのは無理だと、住民に理解をしてもらうことも大事です。行政や町会関係、民生委員など社会福祉関係者も被災者になることだってあります。いざ災害に直面した場合に心理的に即座の対応が難しいのは、当たり前です。</p> <p>そうしたことから、震災に見舞われたときに備えての防災意識や防災訓練は「自助」を大きなテーマとして位置づけたものが、必要かと思います。</p> <p>そこで金沢市では「自助」での「出来ること」について、どのように考えて対策及び広報をしていますか</p>

提出課題についての市の方針等 6 - (1)

<p>共通課題</p>	<p>震災に強いまちづくり</p>										
<p>意見、質問等</p>	<p>自助を大きなテーマとした防災意識や防災訓練が必要だと思うが、市ではどのような対策や広報をしているのか。</p>										
<p>市の方針等</p>	<p>ご指摘の通り、大きな地震が発生した場合には市全体が被災し、災害対応力が著しく低下する可能性が高く、このことを防ぐには、市職員は元より市民全体の自助力の向上が欠かせないと考えています。</p> <p>そのため、年間100回を越える防災出前講座の開催や防災訓練の実施、各校下・地区でのコミュニティ防災士の計画的な育成等を通じて、地震の揺れから身を守るための安全行動に加えて、建物の耐震補強や家具の転倒防止等を行うことが、より効果的であることを啓発しており、まずは、自らを助け、その助かった命で、困っている方に手をさしのべる共助を実践していただけるよう、働きかけています。</p> <p>また、平成25年度からは、地震が発生した際にとるべき3つの安全行動（しゃがむ、隠れる、じっとする）を行うシェイクアウト訓練を実施し、自主防災組織を始めとして、保育園や幼稚園、小・中学校の児童、生徒にも広く参加をいただいております。今後も、普及に努めてまいります。</p> <p>【参考】シェイクアウト参加人数（金沢市、石川県）</p> <table data-bbox="319 1288 973 1422"> <tr> <td>H25</td> <td>67,810人</td> <td>171,297人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>74,887人</td> <td>194,736人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>98,291人</td> <td>236,080人</td> </tr> </table>		H25	67,810人	171,297人	H26	74,887人	194,736人	H27	98,291人	236,080人
H25	67,810人	171,297人									
H26	74,887人	194,736人									
H27	98,291人	236,080人									
<p>担当課</p>	<p>危機管理課</p>	<p>電話 220-2366</p>									